

ポスターセッション発表プログラム

(2022年10月8日(土)13:00~14:25 於:図書館・ホール)

在席責任時間:奇数番号(前半):13:00~13:40 偶数番号(後半)13:45~14:25

一般テーマ

No	筆頭発表者	発表タイトル
1	森谷路子	幼児の運動能力調査結果からみた各測定項目間の関係
2	山川直孝	小学校特別支援学級担任を対象としたポジティブ行動支援に関する校内研修の効果
3	鳥海弘子	オンライン保育実習における感染症の学びの効果について
4	松村香	児童養護施設版「生活安全感・安心感尺度」のオフライン型調査方法の構築の試み
5	上田敏丈	保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題 —アンケート調査の自由記述に着目して—
6	久保寺賀子	対話型鑑賞のファシリテーターの機能と役割を取り入れた“劇あそび”の活動 —保育内容「表現」科目における授業実践より—
7	村上優衣	障害児のきょうだいの実態調査 —きょうだい支援のための予備的研究—
8	齊藤彩	発達支援ニーズをもつ子どもの特性と養育に関する研究 —地域コホート調査による検討—
9	塘利枝子	在日ブラジル人の子どもに対する現在の心配ごとと将来の期待
10	並木真理子	「創発」理論を基盤とした「創作鬼ごっこ」の解釈
11	味田徳子	生命(いのち)の安全教育の取組みに向けて —保育学生における「性教育」の意識調査—
12	河野和明	子に対する親の接触回避傾向は子の年齢で変化するのか? —親子の性別を考慮して—
13	油川さゆり	小学校低学年のプログラミング的思考を育む授業実践 —3年間の縦断研究から—
14	近藤大智	HSPの認知特性
15	浦谷裕樹	家庭で子どもの非認知能力を育成する親子AIコミュニケーションツールの開発と評価
16	小澤純子	岐阜盲学校128年の歴史をたどる —創設者森巻耳(けんじ)の教育に支えられて—
17	川瀬雅	保育領域「表現」で求められる内容の再考 —ニュージーランド乳幼児カリキュラム「テ・ファーリキ」との比較から—
18	安世羅	韓国の統合保育園と一般保育園における保育士の支援の現状と課題 —保育士のインタビュー調査に基づいて—
19	辻谷真知子	園のきまりの共有に関する保育者の判断や迷い —個人へのインタビュー調査をもとに—
20	戸次佳子	絵本の研究(2) —発達課題を手掛りに、描かれた主人公の成長を読み解く試み—
21	松崎真実	音楽経験は第二言語獲得に影響を与えるか —大学生の英語技能と音楽経験の関わり—
22	岩井祐一	知的障害特別支援学校高等部における理科の授業パッケージの開発 —実態調査および化学分野の実践を中心として—
23	服部弘	幼児の成長・発達に良い食育の試み —味覚嗜好性と生育環境との関わりとしての、食事・情報—

24	松阪崇久	幼児の科学的な好奇心を深めるための教育方法の検討
25	佐藤みのり	医療的ケア児のきょうだいにおけるヤングケアリングの実情 —小児看護スタッフへのインタビュー調査から—
26	西岡直実	子どものつくる物語の特徴と想像の源泉 —小学生の物語づくりワークショップから—
27	林美里	比較認知発達の視点から見たヒトの子どもの言語発達研究
28	粥川恭輔	語彙力が情動知能に与える影響と他者認識
29	安藤寿康	積極的な脳 Enactive Brain に及ぼす遺伝の影響に関する考察 —行動遺伝学との整合性—
30	仁木和久	子どもの学びと成長をささえる積極的な脳 Enactive Brain II —社会・文化の中での概念・知識の獲得・形成—
31	小木曾友則	乳児保育における保育者の子ども理解の姿勢 —エピソード記録の質的分析から—
32	鳥居園未	A こども園における発達に困難を有する子どもの生活と発達の支援 —ランチルームの取り組みを通して—
33	藤原直子	児童養護施設におけるアートセラピー体験の実践 —児童の自己効力感に及ぼす影響—
34	渡邊雅俊	子どもの造形表現における共同制作の援助方法

大会テーマに係る特別テーマ (With コロナ社会で生きる子どもたち その発達と未来を考える)

No	筆頭発表者	発表タイトル
1	稲田公子	with コロナへの道程 —F 保育園の3年間の取り組みを通して—
2	柴田真緒	北欧のコロナ禍における障害・疾病等を有する子どもの「生活・学習・発達」の困難・リスクと 発達支援の動向—知的障害・発達障害を中心に—
3	石川衣紀	北欧のコロナ禍における障害・疾病等を有する子どもの「生活・学習・発達」の困難・リスクと 発達支援の動向—肢体不自由・重度重複障害・疾病を中心に—
4	社会福祉 法人あづ みの森	マスク社会における構音獲得の現状と課題 —向島あづみの取り組み—
5	尾関智恵	対話を活性化させる体を使ったオンラインコミュニケーションツール開発 —ノンバーバルなやりとりの支援方法を探る—
6	堀祥子	コロナ禍での親子造形ワークショップ実践1 —方法の開発と描画の発達段階との比較—
7	東山幸恵	コロナ禍での親子造形ワークショップ実践2 —主食比率からみる子どもの献立構成観—
8	水野友有	コロナ禍での親子造形ワークショップ実践3 —親子間での「発展的平行遊び」の可能性—
9	鈴木康二	3歳児を対象とする歴史系ワークショップの再検討 —「模倣」と「達成感」—
10	李月	With コロナ時代における発達支援センターと家庭間連携 —ネット・ツール活用に注目して—
11	木村治生	小学生のメディア利用時間の変化 —大規模継続調査によるコロナ禍前後の検討—
12	朝倉民枝	コロナ禍における入院中の子どもたちを対象とした物語づくり活動報告

- 13 佐藤朝美 創造的な Digital Play を支援するオンラインワークショップの提案
—みんなの遊び場づくり—
- 14 杉山章 コロナ禍の「LD・ADHD 等」通級指導教室
—屋外小集団活動を取り入れて—